

富士河口湖町立 教育センターだより

No. 1 3

令和4年11月16日

文責 古屋ひとみ



修学旅行

仲間と共にかげがえのない思い出を作った子どもたち

湖南中学校



4月22日～24日の勝山中学校を皮切りに実施されてきた修学旅行。10月26日～27日に実施された大嵐小学校・西浜小学校を最後に町内全ての小中学校の修学旅行が終了しました。コロナ禍、どこの学校でも常に旅行先の感染状況を把握する中で、実施の判断を行い、予定していた行程を実施することができました。

中学校の修学旅行先は京都・奈良方面。小学校は、神奈川・東京方面。子どもたちは、親元を離れ、仲間と寝食を共にし、旅先で様々な人と出会い、現地でしか体験できないことを通じて、多くのこと学び、有意義な時間を過ごすことができました。

外に出た時こそ日頃の力が試されます。これまでの学校生活で積み上げてきた様々な力があるからこそ、みんなで宿泊したり、グループで散策したりできるのです。修学旅行を通して集団としての力を更に高め、仲間と共にかげがえのない思い出を作った子どもたち。卒業まで残り4か月となりました。最高のゴールを目指してこれからも頑張りたいと思います。

小立小学校



河口小学校



北中学校



勝山中学校



大石小学校



勝山小学校



大嵐小学校



西浜小学校



船津小学校



防災教育研究授業

「自然災害を正しく知り、そなえよう」

町の教育センターでは平成25年度に「富士山学習研究会」を立ち上げ、研究を進めてきました。富士山科学研究所と町地域防災課、ケーブルテレビ河口湖との連携により、共通教材を開発し、授業実践や研究員の研究会を行ってきました。その研究の一つとして、防災教育を行っています。これは、子どもたちの防災教育の推進と先生方の指導力の向上を目的としています。今回は、河口小学校で防災教育の研究授業を行いました。

授業者は5年担任の高尾篤史先生。また、富士山科学研究所の吉本充宏先生・久保智弘先生、町地域防災課の渡辺大介様にもご指導いただきました。

授業者

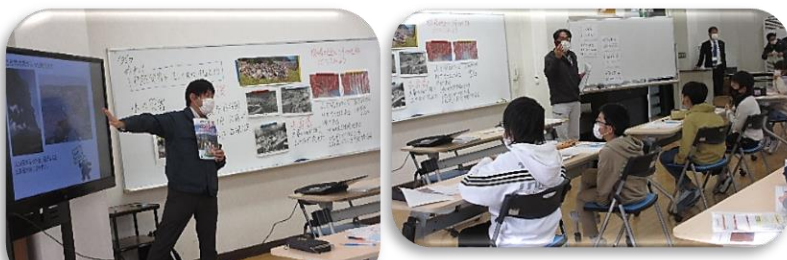
河口小 高尾篤史先生

「自然災害を正しく知り、そなえよう」をテーマに、5年生16名が防災について考えていきました。前半では、旧足和田村で起こった土砂災害「足和田災害」をもとに、同じような地形にある河口地区も土砂災害の危険性があることを学びました。後半では、富士山科学研究所の先生方が「富士山噴火による降灰後は土石流災害の危険性が高まる」ことを実験で紹介。また、地域防災課の渡辺大輔様からは、日頃の備えや正しい情報に基づいて行動することの大切さについてお話がありました。

子どもたちからは、「実験により火山灰が降ると土石流の危険が高まることが分かった。」「いつ災害は起こるかわからない。備えておくことが大事。防災アプリなどを使って正しい情報を集め、素早く行動したい。」「今日学んだことを家族と話し合いたい。」といった感想が聞かれ、防災意識が向上したことを実感できる授業となりました。



吉本充宏先生による降灰後土石流実験



久保智弘先生と渡辺大介様の授業の様子

富士山科学研究所や町地域防災課との連携による大きな後ろ盾があるからこそこうした授業を行うことができます。富士山学習研究会では、今後も同様の授業を他校でも行っていきます。今回の成果と課題を生かして更に研究を深めていきたいと考えています。